

26年10月分

製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 9月20日～ 26年10月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/10月	11月	12月
入荷動向	国産材製材品	5.6	16.7	16.7
	外材製材品	16.7	16.7	11.1
	その他	0.0	6.3	6.3
販売動向	国産材製材品	△ 5.6	0.0	△ 11.1
	外材製材品	0.0	11.1	0.0
	その他	△ 18.8	△ 6.3	△ 12.5
在庫動向	国産材製材品	0.0	11.1	16.7
	外材製材品	△ 5.6	0.0	5.6
	その他	10.0	10.0	10.0

・国産材製材品及び外材製材品の入荷は、3ヶ月連続して増加、その他製材品は、10月の横ばいが11月、12月には増加に。
・販売は、国産材製材品は10月の減少が、11月の横ばいを経て12月には減少に。外材は10月の横ばいが11月の増加を経て12月には横ばいに。その他は3ヶ月連続して減少。
・国産材製材品の在庫は、10月の横ばいが11月、12月は増加に、外材は10月の減少が11月の横ばいを経て12月には増加に、その他は3ヶ月連続して増加。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		26/10月	11月	12月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 22.2	△ 5.6	△ 16.7
	柱角 KD12×3	△ 22.2	△ 11.1	△ 16.7
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	△ 16.7	△ 5.6	△ 11.1
	母屋角	△ 11.1	△ 5.6	△ 11.1
	タルキ	△ 16.7	△ 11.1	△ 5.6
	間柱	△ 16.7	△ 11.1	△ 16.7
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	△ 11.1	△ 11.1	△ 11.1
	平割	△ 16.7	△ 11.1	△ 16.7
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 27.8	△ 5.6	△ 22.2
	柱角 KD12×3	△ 27.8	△ 5.6	△ 22.2
	土台角 10.5×4	△ 27.8	△ 11.1	△ 22.2
	土台角 12×4	△ 22.2	△ 5.6	△ 16.7
	通し柱 12×6	△ 7.1	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	△ 5.6	5.6	5.6	
米マツ割物	△ 6.3	6.3	6.3	
北洋エゾマツタルキ	△ 12.5	12.5	12.5	
北洋アカマツタルキ	△ 18.8	6.3	0.0	

・スギ製材品の価格は、通し柱及び加工板の3ヶ月連続しての横ばいを除いて、ほかの品目は総じてやや弱保合。

・ヒノキの製材品価格は、通し柱の10月のやや弱保合が11月、12月は横ばいになるのを除いて他の品目は弱保合ないしやや弱保合。

・カラマツ土台角は3ヶ月連続して横ばい、米マツ平角・割物、北洋エゾマツタルキ及び北洋アカマツタルキは10月のやや弱保合が、11月、12月は保合ないしやや強保合に。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・原木減により需給バランスは取れている。10月以降出材増により入荷増加見込み。販売は10月需要期に横ばい、11月以降はやや増加を期待。在庫はヒノキ並材は原木増も役物とスギ原木は並～役取りに至るまで全般的に品薄。
- ・国産原木丸太の手配が難しくなっており、例年入荷が増えてくるのが現状だがそのような気配がない。
- ・ヒノキ・スギの入荷は良好に推移、外材製品は一部WW製品に品不足寸面が出てきている。ヒノキ・スギの役物は売りづらい。一般材も安値で推移している、外材は円安の影響で先高感から販売しやすい。国産材の在庫は全体的に増加傾向、外材は品不足寸面もあり入荷減少で在庫減。
- ・国産材は入荷順調、外材は円安の影響が出始めた。10月上旬は創立記念市があり国産材、外材とも販売が増加した。記念市で売れた分。在庫減少、WW,アカマツは今が底とみて仕入れ強化する。
- ・スギ製品の荷動きが悪い。円安の影響があるが値上げできない。
- ・実需の動き悪く、様子見の模様、在庫処分後、若干入荷量を増やした所。秋需の動きが見られない。販売弱し。在庫多少持つようにした。

(価格動向)

- ・スギ柱は、名古屋地区ではスギ需要は少なく使用の際はEWやWWなどと同等の品質を求められるので単価は高止まり、地域的にスギ下地は使用量・物件が少ない、ただ今後外材コストによっては使用率上昇もあるかも。ヒノキは、スギと比べると出材量は回復傾向。ただ全般的に需要回復せず、素材増加と共に単価下落を懸念。外材の上昇が国産材の追い風となるよう期待したい。
- ・スギは、現在需要の急激な増加はないが、この先物件が出てくれれば価格高騰の可能性あり。輸入材は為替変動により大きく変わって行く可能性あり。
- ・スギ構造材はKD,GRN共に下落傾向が続いている。スギ羽柄材は構造材より荷動きは良いが下落傾向、ヒノキ構造材は下落傾向が続いている。米マツ平角、割物は入荷量も減少傾向で横ばい、北洋材はまだ現地挽製品は多いが、今後は保合傾向になりそう。
- ・スギ柱角 (KD10.5cm、12.0cm) 55,000円/m³、スギ桁角、母屋角40,000円/m³、スギタルキ45,000円/m³、スギ間柱KD66,000円/m³、スギ加工板グリーン材束2,800円、KD束3,800円、スギヌキ東北40,000円/m³、秋田50,000円/m³、スギ平割プレーナー38,000円/m³ラフ38,000円/m³、ヒノキ柱角・土台角KDアッセンブル価格85,000円/m³、米マツ平角 KD68,000円/m³、米マツ割物AD65,000円/m³、北洋アカマツタルキS64,000円/m³、P55,000円/m³。
- ・スギほか全て現状維持。